ぴーちっこ

発行　社会福祉法人 聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）
聖友学園（児童養護施設）
ともさぽ（フォスタリング機関事業）

改築報告
特集号

乳児院と学園が合体しました！

12月に生活棟（A棟）が完成し、聖友ホームの新生活がスタート。

2023年4月に始まった改築工事は生活棟A棟完成にいたりました。工事関係者のご尽力、支援いただいた皆さま、地域の見守りに感謝しつつ全館完成まであと一息です。

祝 完成

旧学園舎

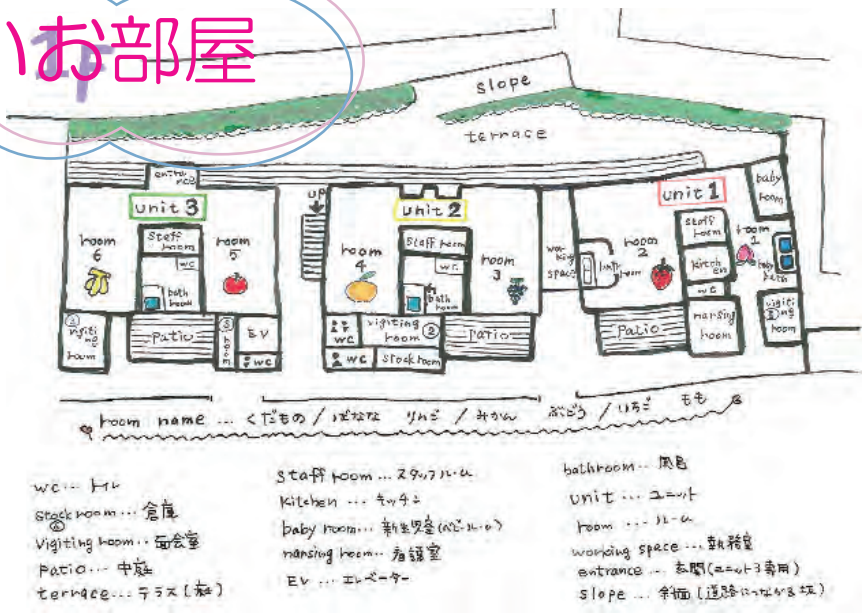
解体

完成

2023年11月発行の
ぴーちっこで紹介した
学園舎解体後の様子

乳児院の新しいお部屋の紹介

生活棟が完成し、ホームの新しい生活が始まりました。少しの年代差をもって構成する三つのユニットがあり、それぞれで子どもたちがお互いの交流、信頼を築きながら成長していきます。



ユニット1

ユニット1は、1才くらいまでの子どもたちが生活するお部屋です。ももルームには生後5日頃から1カ月頃までの子が過ごすお部屋があります。初めての環境で過ごす子どもたちの気持ちを受け止めながら少しずつ信頼関係を築き、子どもたちにとって安心できる存在となれるよう、温かい関わりを大切にしています。

職員の腕の中ですやすやと眠っていた子が、1年経つと歩けるようになったり話せるようになったりと身も心も大きく成長していきます。日々の姿を見守り、子どもたちがそれぞれのリズムで毎日を過ごしながら、健やかに成長できるよう支援しています。

ももルーム　ルームリーダー　保育士　岩下阿弥

ユニット2

新舎となりしばらくは環境の変化に戸惑い泣いてしまったり、期待を膨らませて探索をする子どもがいたりと落ち着かない日々が続きましたが、徐々に新しい環境にも慣れてきて安心して生活できるようになってきました。最近ではルーム単位での生活をするようになり、より小規模保育が現実となってきました。時にはユニットで集結してみんなで仲良くご飯を食べたり、眠ったりもしています。日中は外で元気いっぱいに走り回ったり、お買い物に行って社会経験を積んだりと楽しく生活しています。

みかんルーム　ルームリーダー　　保育士　浅野青海

ユニット3

ユニット3は1歳頃から3歳前後の子どもたち12名が現在生活しています。りんごとばななの2つのルームがあり、日中は最大6名の少人数で過ごします。遊びの時間は2～3名のグループに分かれてお散歩や公園へ出かけたり、お部屋の中でお絵描きや粘土、玩具などで遊んだりして過ごしています。それぞれのお部屋は引き戸で繋がっており、トイレやお風呂はどちらのお部屋からも行くことが出来ます。高月齢児を対象としたルームのため、自分で靴を履いたり手を洗ったり出来るようにユニット3にだけ専用の玄関があります。

ばななルーム　ルームリーダー
児童指導員　久保郁美

心理室

3階には、広くて明るいプレイルーム「びわのおへや」が乳児院心理室に併設されています。たいへんありがたく思っております。

2025年1月より在籍しているお子さん皆さんと個別にかかわる時間を可能な限り設定し、ひとりひとりのお子さんの運動面・情緒面の様子をユニットの職員とていねいに共有して成長発達へとつなげていけますようにと願っています。「3カイ！」と、子どもたちも期待してくれています。

治療指導員　小林智子

学園の新しいお部屋の紹介

昨年暮れから始まった新しい園舎での生活、子どもたちも慣れてきて親しんでいるようです。新しい室内の様子とともに、各グループの職員から園舎の日々を話していただきました。

サボテンホーム

12月に引っ越しをして、男児ホームでは子どもたちがリビングで過ごすことが増えました。高齢児が多いため、毎日とは行きませんが、皆で一緒にご飯を食べたり、ゲームをしたり、わいわいと過ごしています。環境の変化でストレスが溜まったり、慣れない建物に戸惑ったりする様子もありましたが、少しずつ慣れることができています。

（サボテンホーム　小澤 想也）

コスモスホーム

コスモスホームは、幼児から高校生までの女児6人ホームです。本園に引っ越してきて、今まで相部屋だった子たちも全員一人部屋になったことで、何かあったときに一人で落ち着ける場所が、幼児も含めできたことはとても良いと思います。リビングはとても広く、走ってしまうこともありますが、綺麗な本園に嬉しそうです。今後も綺麗を保ちつつ、使い方を工夫して考えていきたいと思っています。

（コスモスホーム　福田 麿奈美）

なでしこホーム

なでしこホームは現在、年長2名・年中2名・年少1名の5名で生活をしています。乳児院にいたとき、一緒に生活をしていたことも覚えており、ときどき喧嘩はありますが、みんなでワイワイ仲良く生活をしています。子どもたちは、各々ブロックや工作、一緒にお

リビング

学園ホームのリビング

キッチン

ホーム内の廊下

心理プレイルーム

屋上

ままごとなどをして遊んでいます。これから、子どもたちがどのように成長していくのかを楽しみにしながら、日々を送っていきたいと思っています。

（なでしこホーム　三鍋 かおり）

にこにこホーム

にこにこホームは、聖友学園初めての試みとして、杉並区専用の、地域のお子さんを短期間お預かりするホームです。家族と離れて過ごす不安をできるだけ軽減できるよう、また来たいと思ってもらえるようなあたたかい空間づくりを目指し、玩具やお部屋の環境を整えている最中です。

（にこにこホーム　中村 朝美）

心理プレイルーム

部屋全体は、広く開放的な雰囲気になっております。また、中心部分にアコーディオンカーテンを引くことで、部屋を区切ることもできるので、小規模な空間の方が落ち着く子どもにも、対応できるようにしております。使用する玩具や物品も、子どもたちに合わせて用意しております。多くの子どもが使用しますので、様々なニーズに応じることができるような設計とし、子どもたちにとって安心して過ごせるような空間を目指しております。

（心理療法担当職員　永井 啓太）

屋上夕景

工事・設計の苦労あれこれ

施設改築工事について施工で苦労したことを工事業者の方にうかがいました。

(株)ナカノフドー建設の長倉隆成さんから苦心した三つのこと

①現場までの道路が非常に狭く、大きな車両での搬入が出来ないため小さな車両で台数を多くして資機材の搬入を行ったり、大きな重機は松山通りで機械を下ろし、自走して現場まで搬入し道路を傷めないように養生を行い、歩行者や一般車両の通行が少ない早朝6：00から搬入を行うなど搬入車両の調整が非常に大変でした。また周りに幼稚園、保育園が多く、小さなお子様のお散歩や送迎の自転車など、第三者との事故や災害に通常の作業所よりも気を配り配慮する必要があり苦労しました。

2023年10月
学園舎解体後の
更地の状態

②今回の建物は鉄骨と鉄筋コンクリートを合わせた構造です。鉄骨のボルトは決まったトルクで締め付けが必要なため、水がボルトと座金の間に侵入すると小さなトルクで回転してしまい問題が生じます。またコンクリートはセメント、骨材、水の配合が決まっており、雨の日に打設すると配合が変わってしまうため、適正な強度が発現しない場合があります。床仕上げの際も雨粒の跡がついてしまい余計な補修作業となります。そのため、上記作業で雨が降ると、作業を中止または延期とするため、工程や工期の調整が発生し非常に苦労しました。

2024年3月14日
基礎工事の状況

③今回のプロジェクトコンセプトが「温かなぬくもりに包まれる、やすらげる」建物とのことで、児童養護施設に住宅の要素を取り入れた設計となっており、私が今まで施工してきた共同住宅や工場などではあまり使用しない材料や納まりがあり、共同設計様と協議、検討を重ね施工を行いました。例えば、中庭のオーニングです。お引き渡し後のメンテ等を考え取付場所を協議したり、また外壁が押出し成形セメント板なので、下地の取付が難しく、どのように取り付けるかに非常に悩み、図面で何度も検討と確認を重ねることで、なんとか取付けることが出来ました。私的には非常に勉強になった現場となりました。Ｂ棟の工事でも共同設計様と協力し、Ａ棟での施工を見直し、品質の良い建物はもちろん、聖友ホーム様に更に喜んでいただけるような建物をお渡しできるように尽力いたします。

完成したA棟西側通用門付近

共同設計(株)の 齋藤 潔さんから 設計、工事監理の苦労とやりがい

一番苦労した点は、建物の高さや床面積の上限に関する法律上の制限が厳しく、ご要望の部屋・機能を魅力的に設計に盛り込んでいく過程が大変でありました。しかしそれと同時に、条件が厳しければ厳しいほど、やりがいを感じることができる貴重な時間となりました。

学園 乳児院

共同設計(株)の 田邉怜夢さんから 改築コンセプトを大切に

建物の面積や高さなど制限が多かったため、皆さまのご意向で、子どもたちの生活の場を最優先に設計しました。改築のコンセプトである皆の生活が豊かになる家、いつでも帰ってこられる、迎え入れる場を作るために職員の方々との話し合いに重点を置き、設計に組み込みました。

2024年（2月5日引き渡し直前の様子建物東側から撮影）

内装は、清潔感のある白を基調とし、空間をより広く感じられるようにしました。乳児院ホームの玄関と児童養護ホームの各居室に色を取り入れ、子どもたちが自分のホーム（家、部屋）をイメージできるようにしました。

改築の理念である温かなぬくもりに包まれる「聖友ホーム」を実現するため、床や家具にはできる限り木を使用し、家にあまりないエレベーターには木目調の壁紙を使用することでぬくもりを感じられるよう工夫しました。

落ち着ける場所、みんなで遊べる場所、リラックスできる場所等、ここで過ごす皆様の気持ちに寄り添う家となって、皆様にどこか１つでもお気に入りの場所を見つけていただきたいと思い設計を進めました。

建物が一新して、皆様の毎日の心持が少しでも晴れやかなものになりますように、より一層想像力を働かせて最後の最後まで施工者の皆様と一丸となって素敵な建物をお届けできるよう最善を尽くして参ります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2024年1月工事中の写真

2024年8月外壁は3階までできた

皆さまには、既存建物の使用状況、子どもたちの生活の情景など、子どもたちと生活している職員の方しか知り得ないお話やご意見、ご要望を頂き、多くのことを学びました。

社会人1年目から本プロジェクトに携わり、5年間で大勢の方とお話をし、建物が建っていく過程を聖友ホームの皆さま、生活をする子どもたちと一緒に辿ることができ、とても嬉しく思います。私が携わった初めてのプロジェクト、建物が完成していく様子を見て、皆さまから頂いた多くのお言葉と同じ思いを私も感じておりました。初めての顔合わせの時や最後のワークショップなど、お話をお伺いする度に皆さまの改築に対する想いと温かい雰囲気に感極まり、皆さまから感じるぬくもりを建物で表現したいと思いました。ここで過ごす子どもたち、働く職員の皆さまの拠り所となればと思います。

建物で実際に過ごされる様子を拝見し、改めて、建築士として設計の楽しさややりがいを感じております。今まで頂いた沢山のご意見とA　棟の改善点を活かしてB棟完成まで残り約1年、皆さまの生活の場、皆の家としてより良い建物となるよう誠心誠意、努めて参ります。引き続き皆さまのお力添えのほどよろしくお願いいたします。

～新しい事業　始めました～

子どもたちへ

児童自立生活援助事業　－自立援助ホーム"リガード"－

これまでは、自立をしたいけれども資金や一人暮らしのできる生活力が整っていない子どもは、児童養護施設を出た後は、別の法人が運営する自立援助ホームを探して入所していました。

ところが、児童福祉法の改正により、聖友学園のような児童養護施設も自立援助ホームのⅡ型という枠組みで自立援助ホームを運営してよいことになりました。施設の建物を利用するだけでなく、施設がアパートの1室を借りて、そこに子どもが一人で住み、職員が継続的に居住支援（食事、洗濯、ゴミ出しなどを一緒に行い生活力を養う、役所へ同行するなど）をするという形態も可能になったのです。聖友学園では、2025年4月から、自立援助ホーム・リガードを開所しました。現在、学園を退園した子どもが利用しています。

～次号で詳しくご紹介いたします～

職員へ

宿舎借り上げの開始

人材確保（離職防止）のために、職員の借りる物件を法人が借りて職員に住まわせ、その費用の一部は行政の補助金から支払われるという、いわゆる宿舎借り上げ制度は、10年近く前から、保育所や介護事業所などで導入されていましたが、これまでは法人の負担割合が大きく、聖友ホームでは採用できていませんでした。今般、補助金の割合が大きくなるなど制度が変わったので、聖友ホームも4月から制度の利用を開始しました。

利用の要件は、入職から10年未満の職員であり、借りる物件が施設から10km圏内にあることです。6月初め現在、入職10年未満の職員の約8割が利用しています。

ご寄付のお願い

本号記載のとおり、生活棟（A棟）が完成しました。新しい建物に合わせて、新しい備品を購入しました。皆様のご寄付のおかげです。ありがとうございます。

職員は、子ども一人一人のニーズに応えようと、ルームやホームの全員でのお出かけとは別に、子どもが職員を独り占めできる個別外出を増やしたいと考えています。予算に限りがある個別外出を、もっと頻繁にできるよう、皆様のご寄付をお願いいたします。

《振込先》

①郵便局
記号番号　00160-1-766760
口座名義　聖友ホームささえ隊

②銀行名　ゆうちょ銀行（9900）
支店名　〇一九店（019）
口座番号　0766760（当座預金）
受取人名　セイユウホームササエタイ

発行　社会福祉法人
聖友ホーム
法人本部　TEL 03-3336-9830 FAX 03-3338-4679
聖友乳児院　TEL 03-3338-1849 FAX 03-3338-4679
聖友学園　TEL 03-3338-1844 FAX 03-3338-1894
〒166-0001
東京都杉並区阿佐谷北3-28-19
Eメール　sasaetai@seiyuhome.org　ホームページ　https://seiyuhome.org